長時間停車時の乗客心理に関する基礎的検討

山内香奈　鈴木大輔　斎藤綾乃　菊地史倫

インターネット調査を用いた場面想定法実験により，事故や災害の発生により，駅間に停車せざるを得なくなった列車内の乗客が車内にそのまま留まっていられる許容限界時間について検討しました。一口に長時間停車と言っても様々な状況がありますが，今回は首都圏の通勤列車を想定し，車外への降車は厳しく，車内の混雑度は150％程度，空調やトイレは使用できる条件としました。その結果，乗客の負担が特に大きい立位条件では，許容限界時間の中央値は回答者の年代や性別を問わず60分であることが示されました。これは実際の環境で明らかにされたものではありませんが，人が今回の状況を想像したときに，これくらいは許容できると考える時間であり，社会の多くの人がどのように判断するかを知る材料になります。車外への降車誘導が難しい場合で，かつ，車内の空調やトイレの利用ができる場合であっても，列車停止から1時間経過を目安に，乗客への配慮が特に重要になることが明らかになりました。

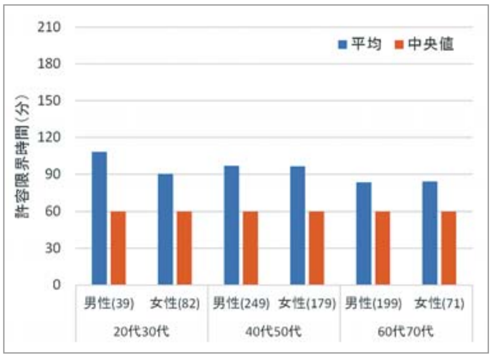

図　車内に留まっていられる許容限界時間の年代差および性差（立位の場合）